

## 第234回研究科委員会・第340回教員会議 議事要録

日時：令和4年7月13日（水） 14：00～16：20

場所：後援募金記念棟 会議室1-3

研究科委員会・教員会議開催前の14時から14時20分まで、キャリアセンター・学類就職支援委員会より、教員向け就職関係説明会が開催された（副センター長2名、うち1名は挨拶のみで退席）。キャリアセンターから支援内容と就職状況の説明があった。その後、就職支援委員長から、進路登録状況の確認の進め方の説明があった。学生には6月1日～30日の期間に登録するように依頼した。今回の依頼は、指導教員に学生の登録内容を確認していただくことである。教員会議後、各教員に依頼のメールを送るので、進路未決定者について送付するファイルに進路決定・未決の別、現在の状況、連絡事項を記入して、7月22日（金）までに「おまかせファイルサーバー」にアップロードしてほしいとの依頼があった。

### 議 題

#### 研究科委員会

冒頭、研究科長から、新型コロナ感染対策に関する学生への口頭指導について依頼があった。2～3年生は受講者数が多い科目で口頭指導し、ゼミの学生・院生にはクラスターを避けるため注意喚起してほしい。海外渡航については、第383回教育研究評議会資料11-1の「表1 海外危険情報対応基準」をもとに説明があった。海外渡航は条件を満たせば学類の判断で可とできる。学類で渡航申請フォームをつくる予定である。

大学院関連では、研究科長から、第383回教育研究評議会資料5-1をもとに5月24日に開催された第6回大学院教育プログラム連絡調整会議の内容の説明があった。資料5-2にもとづき、大学院案内の共通表現や地域デザイン科学研究科をベースにした記述の説明があった。大学院の諸課題に係る検討体制については、資料5-3をもとに大学院運営会議の趣旨と役割の説明があった。今年度、大学院に関する議題があるときには、運営会議のメンバーに環境放射能研究所長と人間発達文化研究科教職実践専攻代表を加える。資料5-4にもとづき、新大学院Webサイトの作成についての案が紹介された。第176回運営会議資料1をもとに、食農科学研究科は6月20日に設置を可とする連絡があったとの説明があった。教育プログラム連絡調整会議では、「イノベーション・リテラシー」を月曜日5限または6限に開講できるか検討している。課題対応型プログラムでは学生からの申請があれば修了証を発行する予定である。資料1-2にもとづきR4年度中の経過措置の説明があり、意見等がある場合は7月15日（金）朝までに学類長宛に連絡するように依頼があった。資料1-3にもとづき、大学院紹介のWeb公開用原稿の作成状況について説明があった。

学類サーバーと全学HPとの関係の考え方について質問があり、学類長から、今後全学が主体となっていく見通しであること、全学HPの更新・追加は学類でもできること、学類HPも一定期間維持する方向にしたいとの返答があった。

最後に、理工棟2階の非常口付近にたばこの吸い殻が散見されるので、学生に注意喚起をするように依頼があった。

#### [ 審議事項 ]

##### 1. 教務委員会

##### (1) 指導教員の変更について

プロジェクター投影資料をもとに院生2名の指導教員変更の説明があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

##### (2) 令和4年度非常勤講師計画について

資料1をもとに説明があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

[ 報告事項 ]

1．学生生活委員会

( 1 ) 令和4年度大学院一般枠入学料免除選考結果について

回収資料をもとに報告があった。全学で15名が申請し、内12名は理工からの申請者であった。

( 2 ) 令和4年度入学料徴収猶予選考について

回収資料をもとに説明があった。許可者4名のうち1名が理工であった。

( 3 ) 学生表彰(9月卒業・修了予定者)について

資料2をもとに説明があった。表彰対象は個人となっており、7月1日から8月22日が申請期間である。

なお、委員長から、Active Studentの募集を7/27まで延長したとの追加報告があった。

共生システム理工学専攻会議

[ 報告事項 ]

冒頭、研究科長から、今後専攻会議を分けずに研究科委員会として一緒にやりたいとのアナウンスがあった。

1．教務委員会

( 1 ) 令和4年度9月修了博士前期課程最終試験日程について

資料3にもとづき、1名の試験が8月18日13時から行われると報告があった。

( 2 ) 令和4年度9月修了博士後期課程最終試験日程について

資料4にもとづき、1名の試験が8月18日10時30分から行われると報告があった。

[ その他 ]

1．その他

委員長から、秋入学生の受講順序に関するアンケートが行くので、対応するように依頼があった。

教員会議

[ 審議事項 ]

1．学類長

( 1 ) 客員教員の任用について

回収資料をもとに客員研究員の提案があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

2．入学試験委員会

( 1 ) 令和5年度編入学試験合否判定について

回収資料をもとに、受験者6名のうち6名を合格としたいとの提案があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

3．教務委員会

( 1 ) 令和4年度非常勤講師計画について

資料1をもとに説明があった。新規5名については教務委員会で検討し問題ないとの報告があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

4．基盤教育委員会

( 1 ) 基盤教育科目「地域と世界の未来をつくる科学と数学」の次年度以降の運営(案)について

資料5をもとに、次年度以降の運営について提案があった。現行の科目名から「と数学」を削除する。今年の幹事は生命・環境分野から出ており、今後ローテーションとする。毎年、授業内容を検討する。基盤教育担当がサポートする。7月14日までに次年度担当者を選出してほしいとの依頼があった。

学類長から補足説明があり、よりよいものにできるように基盤教育委員にサポート依頼があった。

今年度の幹事より、今年度の案も苦しい案であるが、よりよい科目案などが出てくるとよい、とりあえずはこれでやっていくことでよいのではないかとの意見が出された。学類長から、次年度はこの案で動いていくが、さらなる見直し・改善の議論は必要あるとの発言があった。審議の結果、次年度以降の運営（案）は了承された。学類長から分野長に科目担当教員の選出依頼が出される。

## [ 報告事項 ]

### 1. 学類長

#### ( 1 ) 令和5年度概算要求について

資料6にもとづき説明があった。組織改革分に応募する方針で5月以降財務課と相談して準備を進めたが、大学は本案を出さないことに決定した。研究に重点を置いた申請であったのに、残念である。さらに機会をみて、出したいと考えている。設備関係について資料6-2をもとに説明があった。資料6-3では、「グリーン」に二重丸印、「地方創生」に一重丸印をつけ、約1億円の申請書とした。設備概算要求は理工の案を大学から文科省に申請することになった。

#### ( 2 ) 数理・データサイエンス・AI教育検討WG最終報告について

資料7をもとに報告があった。WGは昨年度から活動したが、運営会議や評議会で検討されないまま学類長宛に最終報告が届いた。一方、WGとは別に基盤教育委員会でも検討している。

手続きが正常ではなくWG側の説明が二転三転している等の指摘があった。学類長から、文科省が認定制度を推奨しており避けられない、応用基礎レベルへの対応では理工がすべてを背負う必要はないが検討は必要、との発言があった。また、学類長から、基盤教育委員は学類運営会議で説明して議論してほしいとの要望があった。今ある科目を変更して対応できないのかとの質問には、学類長から、応用基礎レベルは理工の専門科目になるので既存科目をベースに対応していくのがよい、との返答があった。

### 2. 教務委員会

#### ( 1 ) 第69回全学教務協議会について

##### ( 報告事項 )

##### ・Lポートフォリオについて

資料8にもとづき、Lポートフォリオからの依頼が説明された。一つ目の依頼は、学生が入力した事項に対して、指導教員が活用してほしいとのこと。全学類生が対象で、院生は除く。LCでセメスターごとに確認してほしい。二つ目の依頼は、Lポートフォリオをもとに学年末に個別面談を実施し、コメントを入力してほしいとのこと。短いコメントでもかまわない。

1年生の時はGAでいいが2年生以上になると他コースの学生の指導は難しくなるので、コースで担当教員を割り振ったほうがいいのかという意見が出された。学類長から、1)どこまで実質的にやるのかははっきりとしておらず学類間で温度差がある、2)導入されて数年たつが理工では検討してこなかった、3)出された意見もわかるがすぐには実行が難しい、との発言があった。そして、卒業時のDP評価は指導教員がするが、その前段階はどうするかもう少し状況把握が必要となるので、教務委員会と学生生活委員会でも検討してほしい、との依頼があった。

### 3. 学生生活委員会

#### ( 1 ) 令和4年度入学料徴収猶予選考について

すでに説明済みであり、省略された。

#### ( 2 ) 学生表彰(9月卒業・修了予定者)について

すでに説明済みであり、省略された。

### 4. 国際交流センター委員会

#### ( 1 ) 学生の海外渡航プログラム実施時の手続きについて

資料9にもとづき、本学の留学プログラム等に参加する学生が「学研災付帯海外留学保険」へ加入すること、渡航する学生が「海外渡航届」を記入し国際交流センターへ提出することが必要であるとのアナウンスがあった。

#### 5. 男女共同参画推進専門委員会

##### (1) 令和4年度後期研究支援員配置希望者の募集について

資料10にもとづき、本年度後期の案内があった。8月26日が締め切りとなっている。

#### 6. 奨学寄附金の受入について

学類長から、奨学寄附金が1件、共同研究が3件、受託研究が3件あるとの報告があった

#### [その他]

##### 1. その他

#### 教育研究評議会

第383回(6月21日開催)報告

#### 【審議事項】

##### (1) 「第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書(案)」

及び「中期目標の達成状況報告書(案)」について【資料1】

資料1-1にもとづき報告があった。学生ジャーナリストの活動が評価され、年度計画No.6100の評価が から になった。大学改革支援・学位授与機構に提出済みである。

##### (2) 令和4年度福島大学運営計画(案)について【資料2】

資料2-1の策定方針の説明があり、資料2-2 から を文科省に提出したとの報告があった。資料2-2と2-3の黄色網掛け部分は学類・研究科で作成が必要である。資料2-4は本学独自の運営計画で、資料2-5は7月以降に公表予定である。

##### (3) 「第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標」選定及び

申請書(案)について【資料3】

6月中に申請予定となっている。本学の「意欲的な評価指標」として、中期目標の区分である「社会との共創」「教育」「研究」の各区分から各1項目<地域実践特修プログラム(社会との共創・教育)協働プロジェクト学修(教育)発酵醸造研究所(社会との共創・研究)>を選定した。

##### (4) 学長選考・監察会議委員の選任理由について【資料4】

資料4-1にもとづき、説明があった。

##### (5) 大学院の改革について【資料5】

研究科長から説明済なので、省略された。

#### 【報告事項】

##### (1) 就業規則の一部改正について【資料7】

資料7-1にもとづき説明があった。2か所の網掛け部分が改正箇所、キャリアセンターと地域未来デザインセンター設置関係の部分である。

##### (2) 令和3事業年度決算について【資料8】

資料8-1にもとづき、事務局長が説明した内容が紹介された。

( 3 ) 令和 3 年度の就職状況について【資料 9】

資料9 - 1にもとづき説明があった。R3年度は基本的に横ばいで、公務員が減少し、県内就職も減少した。就活でオンラインが増えてきており、就職決定時期も早まっている。

( 4 ) フィリピン サン・カルロス大学との学術交流協定締結について【資料 1 0】

資料10にもとづき説明があり、今後調印に向けて準備を進めるとのことである。

( 5 ) 「福島大学国外活動時の危機管理基本方針」(第3版)について【資料 1 1】

研究科長から説明済なので、省略された。

( 6 ) ポーランド国立原子力研究センターと環境放射能研究所の協定(覚書)  
締結について【資料 1 2】

評議会当日には環境放射能研究所長から説明があったことが報告された。

( 7 ) 令和 3 年度監事監査結果について【資料 1 3】

監査結果で、「監査のために必要な調査ができなかったことはない」ことが報告された。「財政危機への対応：短期の対応及び中長期を見据えた対応戦略の検討」と「ガバナンス改革：ガバナンス体制の実情と第4期に向けた体制整備、ガバナンススタイルのバージョンアップ」が重要であるとの報告があった。

( 8 ) 福島大学フォーラム2022の開催について【資料 1 4】

地域未来デザインセンターのPRおよび大学院再編に関するPRのため、県内 4 か所(福島市、郡山市、いわき市、会津若松市)でフォーラムを企画している。教員のほか院生がプレゼンする。すでに依頼がされている。

運営会議 (学類長)

第 1 7 6 回(7月12日開催)報告

【報告事項】

( 1 ) 大学院の改革について【資料 1】

研究科長から説明済なので、省略された。

( 2 ) 勤務時間申告書の提出について【資料 2】

理工をはじめ他学類の提出率は 100%ではない。IER だけ 100%である。理工は働きすぎの傾向があるので、労働時間に注意してほしいとの指摘が学類長からあった。

( 3 ) 教育研究費不正防止対策の啓発活動について【資料 3】

四半期に 1 回、啓発活動を行う。岩手大学と山形大学の事例が紹介され、岩手大学の不正は古いタイプ、山形大学の不正は金額が大きいと指摘された。

( 4 ) 「福島大学地域未来フォーラム 2 0 2 2 ~地域と共に、新たなふくしまを  
デザインする~」の開催及び展示ブースについて【資料 4】

資料 4 - 1 の企画書が紹介された。プログラムについて説明があり、研究発表は 4 件×20 分となっている。大学院生が登壇してもよい。いわきでは IER の先生、会津若松では理工の先生、郡山でも理工の先生、福島でも理工の先生が発表する。

フォーラム実行委員会には、理工から評議員が参加する。学類長から、ブース出展は研究の紹介がよいのではというコメントと、当日は手伝いで声をかけるのでご協力をお願いしたいとの発言があった。

( 5 ) 福島大学における「DX 推進計画」検討体制及び実施体制について【資料 5】

前日の運営会議で初めてでてきた計画である。資料5-1によると、幅広く検討する計画となっている。予算の裏付けはないので、今後予算の裏付けを探る。ワーキングに学類から出る人を選出する必要がある。今後学類長からコンタクトする。

(6) 令和3年度標的型攻撃メール対応訓練の結果について【資料6】  
資料6-1に詳しい情報があるので、資料を参照してほしい。

(7) その他

令和4年度国立大学協会第1回通常総会及び国立大学法人学長・

大学共同利用機関法人機構長等会議報告について【資料7】

膨大な資料がある。運営会議では、学長から国大協保険で地震時にかなりの保険金が支払われ、国大協保険が資金難となっているとの指摘があった。今後半分は大学で負担してほしいと言われている。文科省副大臣コメントには、ハラスメント厳正対処、無期転換ルールの円滑な運用、成長分野への投資、総合イノベーション会議、基幹教員の制度等への言及があった。資料7-1に詳しい情報があるので、それを参照してほしい。

最後に、学類長からオープンキャンパスへの協力依頼があった。